

近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所
資料配布

配布 日時	平成22年7月16日(金) 14時00分
----------	-------------------------

件名	真名川ダム湖内での水面変色について(第2報)
----	------------------------

概要	<ul style="list-style-type: none"><li>● 水面変色の原因は、<small>りょくそうもう</small>緑藻網のタマヒゲマワリ及びカタマリヒゲマワリを優占とするプランクトンの増殖による淡水赤潮でした。</li><li>● なお、毒性はなく、人体に影響を及ぼすものではありません。</li></ul>
----	--

取り扱い	_____
------	-------

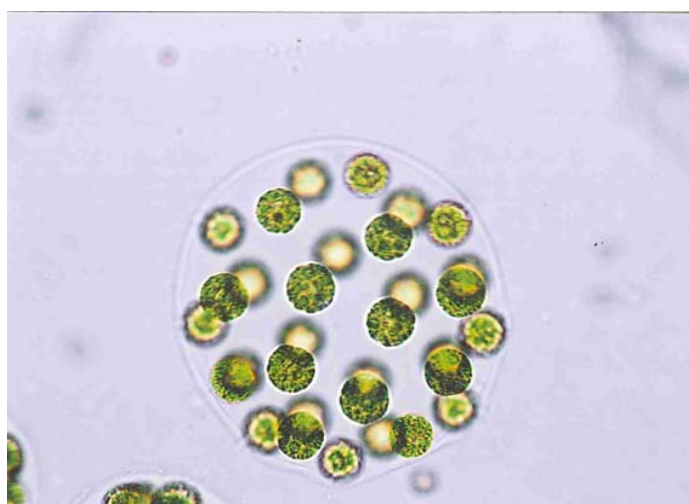
配布場所	大野市 情報広報課
------	-----------

お問い合わせ先  
近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所  
管理課長 荒木 道男(内線331)  
電話 0779-(66)5300(代)

## 真名川ダム湖内での水面変色について (第2報)

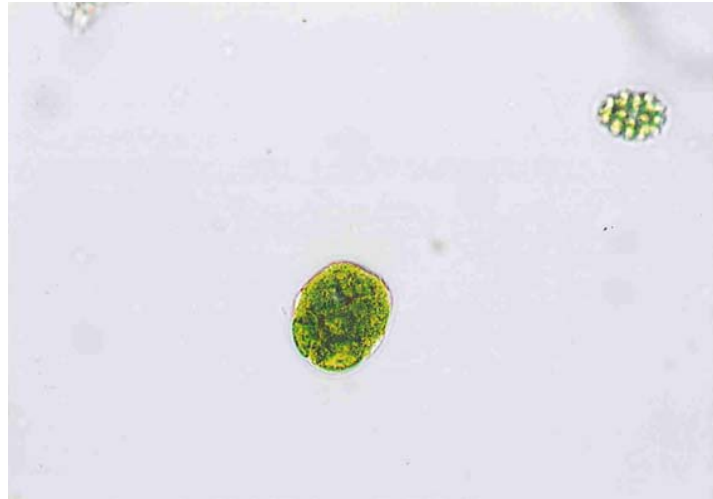
- 7月13日10時頃、真名川ダム管理支所職員が、ダム湖の貯水池監視中に発見した10地点の変色の原因が判明しました。
- 分析の結果、りょくそうもう緑藻綱のタマヒゲマワリ(\*1)及びカタマリヒゲマワリ(\*2)が優占種として確認されており、これが変色の原因と考えられます。
- これらの種には毒性はなく、人体に影響を及ぼすものではありません。

\*1: 「タマヒゲマワリ」は、湖沼や貯水池、河川などさまざまな水域に広く生息するプランクトンで、楕円体状の群体を形成し、通常32個(時に16、64個)の細胞が表層に並んでいる。細胞はおおむね球状で2本の等長の鞭毛を持ち、眼点1個を有する。群体は透明な寒天質で覆われており、その大きさは60~150 $\mu$ m程度である。この種は、日中は表層近くに集積する性質があり、ダム上流端付近では河川流入水の潜り込みによる表流水の逆流や谷風により異常集積することがあります。



タマヒゲマワリ

\*2: 「カタマリヒゲマワリ」は、小さな湖沼、水溜まりなど、狭い水域に多く生息するプランクトンで群体性及び遊泳性を持つ。細胞は球形または洋梨形で、2本の等長の鞭毛、1個の眼点、収縮胞を持つ。8または16個の細胞が密接して放射状に並び、寒天質状の粘質鞘に包まれ、群体は30~60  $\mu$ m程度の大きさである。この種も\*1と同様に、日中は表層近くに集積する性質があり、ダム上流端付近では河川流入水の潜り込みによる表流水の逆流や谷風により異常集積することがあります。



カタマリヒゲマワリ

真名川ダム 変色発生場所

平成22年7月13日

